

2002年11月21日 Vol. 30



「運動体の組織」と「事業体の組織」

NPOの目的は、社会的使命を実現することにある。NPOの核心には、なんらかの思いや志、あるいはこだわりが存在している。こうした社会的使命に共鳴し、その達成に向けて努力するのが、NPOの組織としての特徴である。したがって、多くのNPOは、思いや志を共有し、持続し、さらにそれより多くの人々に拡大させていく「運動体」としての色彩を強くもった組織と言える。逆に言えば、そのような「運動体」としての魅力に欠けたNPOは本来のNPOらしさを失った組織といってよい。

しかし、NPOが誕生しその活動を継続していくうとすると、NPOには「事業体」としての組織が必要となる。そこでは、事業の目的を明確化し、その目的を達成するための計画をきちんと立て、その計画に基づいて事業の進捗管理を行い、成果を着実にあげていくためのマネジメントの能力が不可欠となる。プラン-ドゥ-チェック-アクションというマネジメント・サイクルをきちんと回すことが企業や行政の組織ばかりでなくNPOにも必要な理由がここにある。このように、NPOには「運動体」としての組織と、「事業体」としての組織の両面が求められており、両者のバランスをとることに、独特の難しさが存在している。

この両者のバランスを維持することは、NPOの永遠の課題とも言えるが、今後日本の社会でNPOがさらに発展していくためには、この課題を避けては通ることはできない。思いや志を共有しつつ、事業をしっかりと遂行できるような「自律分散型組織」とか「分社化・別会社化」を具体的に考える段階にわが国のNPOもそろそろはいりつつある。

せんだい・みやぎNPOセンター代表理事 大滝精一

内 容

5周年記念フォーラム
「NPO支援税制」いよいよ改正の山場!!
NGOのスタディツアーエクスカーション記、はみだしエッセイ
部会報告、東北のNPO支援センター大集合!
BOOK、事務局活動報告ほか

■せんだい・みやぎNPOセンター 5周年記念フォーラム ■

「中間支援組織」というわたしたちの挑戦

□11/1(金)

●5周年記念・オープニングセレモニー(13時30分~)

●特別シンポジウム

会場:仙台市情報・産業プラザ 多目的ホール(アエル5階)

●交流会(18時~)

会場:ビーブ・ベースメントシアター

□11/2(土)

●NPOと日本の未来を語る・ラウンドテーブルディスカッション(13時~)

会場:ハーネル仙台 松島の間

せんだい・みやぎNPOセンターは、おかげさまで11月1日をもちまして設立5周年を迎えることができました。これを記念して開催した11月1日と2日の記念フォーラムには、多くの会員の皆様や関係者の方々にお越しいただきました。今回は抜粋してその時の模様をお伝えいたします。日本のNPOを代表する方々との熱い議論の一端を感じてください。(詳細は新年号みんみんに掲載予定)

●特別シンポジウム「10年後の日本とNPOの役割」

◆出演

上野千鶴子氏 東京大学大学院人文社会系研究科教授

岡部一明氏 東邦学園大学助教授

大滝精一 当センター代表理事

東北大学大学院経済学研究科教授

コーディネーター:加藤哲夫 当センター代表理事

専門分野が異なる三氏に起こしいただき、過去を振り返りながら10年後の日本とNPOの役割について語っていただいた。

前半では、フェミニズムや女性たちによるワーカーズコレクティブなどに詳しい上野さん、サンフランシスコ在住時代からアメリカのNPO情報によって私たちを刺激しつづけてきた岡部さん、企業の経営戦略研究からNPOに接近した大滝さん、三氏によるこの10年の日本社会とNPO、そして10年後の日本とNPOの役割について刺激的な議論が展開した2時間だった。

上野さんは、女性の運動の流れからNPOに触れ、「ワーカーズコレクティブ」や「NPO」という枠組みを使って、地域のニーズに応え、介護事業を含む仕事づくりを行ってきたことから問題提起をされた。岡部氏は米国での経験から、日本でのNPOの浸透度

について年代をもって解説。大滝氏は、中小企業研究の過程で今後少子高齢化が進む時、地域を誰が支えていくのかという問題意識からコミュニティビジネスやNPOに関心を持った経緯を語った。

後半での議論のポイントを紹介すると、「次の10年は、NPOは運動体そして事業体としての成果をいかに収めていくかがより問われるだろう。のために企業のスキルを学んだりすることもあれば、自己変革できない企業にNPOの力が必要になることもある」

「単一の収入源で生きていく時代は終りつつある。妻と夫がそれぞれいくつかの仕事に携わり収入を得る、持ち寄り家計」が今後増えるだろう。NPOでの働き方も、専従とは何か?プロとは何か?がより問われる」「米国では、『食えるNPO』が多く、企業と行政とNPOの雇用が流動化しNPOで働くことがキャリアとして認められている。「公共サービスを行うNPO=行政のベンチャー」と捉え新しい試みの実験が大切」

「有給スタッフとボランティア」「理事とスタッフ」「運動性と事業性」「NPOと行政」「NPOと企業」など…。

複雑な関係性がNPOの内外に生まれる。一見対立するものをどう車の両輪とするか、私たちの手腕が問

■NPOと日本の未来を語る・ラウンドテーブルディスカッション

◆出演

川北秀人氏 人と組織と地域のための国際研究所（IHOE）代表
 佐野章二氏 地域調査計画研究所代表
 長澤恵美子氏 日本経済団体連合会1%クラブ担当
 山岡義典氏 日本NPOセンター常務理事
 渡辺元氏 トヨタ財団プログラムオフィサー
 コーディネーター 川村志厚 当センター理事
 紅邑晶子 当センター常務理事・事務局長

日本全国のNPOの方々からお問い合わせが多かった話題の企画「ラウンドテーブルディスカッション」。3時間30分に渡り熱い議論①～④が飛び交いました。
 ①それぞれのNPO過去と現在 各氏の意外な過去とNPOとの衝撃的な出会いが判明
 ②参加者からの質疑 NPOの雇用創出、行政からの事業委託、企業がNPOに求めるもの等の質問に、ゲストは経験に裏付けられたコメントを解答
 ③10年後の未来展望 重要なキーワードが続出！これが理解できればあなたのそして日本の未来は明るい？
 ④当センターへのエール

今回は紙面の都合があるため、④に絞ってお伝えしたいと思います。各氏から発表していただいたキーワードをご紹介しますが、これらは当センターにだけでなく、日本のNPO支援センターへのエールと受け取らせていただきます。

●佐野

1. 誠実
2. 問題解決の実践的NPOネットワーク
3. 社会への提案能力

●山岡

ゆっくり、ていねいに、美しく

●渡辺

支援センター → 俯瞰センター →
 コーディネーター（コーディネーションセンター）

●長澤

支援センター = コーディネーター +
 プロデューサー + アドボケーター
 はっきりしなくなるセクターの境界線
 しなやかさ、美、スロー

●川北

自らパイオニアたるだけでなく、全てのNPOがパイオニアになる5年に（公益性と社会的責任の確認）

 当センターを含むNPO支援センターへの期待は、未来を切り開いていく人々の情熱そして意志と受け取られました。この期待に応え、成果を社会に示すことができるよう、NPO・企業・行政・市民とコラボレーションを続けていきたいと思います。

今後ともご支援・ご協力のほどよろしくお願ひいたします！！

NPOパワーアップフォーラムin東北 報告① 「NPO支援税制」いよいよ改正の山場！！

当センターでは10月31日から11月1日まで「NPOパワーアップフォーラムin東北」を住友生命社会福祉事業団と日本NPOセンターの協力により実施しました。東北地域のNPOのマネジメント能力向上のために講座を開催し、のべ200名を越える方々の参加がありました。この様子を①、②に分けて報告します。

昨年施行されたNPO支援税制。今後の日本におけるNPOの位置付けを考えいく上で最も重要なこの制度は、残念ながら非常に不十分な形でスタートしました。運用開始から1年が経過しても、税制支援の対象となつた法人は全国でわずか9法人（認定率0.1%）という惨状です。

このような状況を改革していくために「NPO/NPOに関する税・法人制度改革連絡会」では、NPO支援税制改正のための全国キャンペーンを展開しています。仙台でも去る10月31日、当フォーラムの一環として「制度改正の口火をみちのくで切る——みちのく秋の陣」と題するシンポジウムを開催しました。

今回の制度改正では、「日本版パブリックサポートテスト」等の認定要件をどこまで緩和できるかが焦点となります。シンポジウムではそのポイントを学んだ上で、NPOセクターとしてどのようなアクションを起こしたらいいか議論しました。詳細は当センターのホームページをご覧ください。

なお当日会場からいただいたカンパ一万三千三百九十九円は全額を「シルーズII市民活動を支える制度つくる会」へ寄附させていただきました。ご報告すると共に寄付者に感謝を申し上げます。

NPOの税・法制改正はこの「1月・12月がヤマです。全国のNPO関係者が国会・政府に現場からの声を届けていくことが大きな後押しになります。ぜひお近くの議員の方々への働きかけをお願いいたします。

 ○パワーアップフォーラムin東北を住友生命社会福祉事業団と日本NPOセンターの協力により実施しました。東北地域のNPOのマネジメント能力向上のために講座を開催し、のべ200名を越える方々の参加がありました。この様子を①、②に分けて報告します。

当センターでは10月31日から11月1日まで「NPOパワーアップフォーラムin東北」を住友生命社会福祉事業団と日本NPOセンターの協力により実施しました。東北地域のNPOのマネジメント能力向上のために講座を開催し、のべ200名を越える方々の参加がありました。この様子を①、②に分けて報告します。

BENYのはみ出しエッセイ

◆らくだのブクブク◆

vol.2

せんだい・みやぎNPOセンター常務理事・事務局長 紅邑 晶子

■ 俯瞰の視点、ゲオルグ・ゲルスター／
空撮の世界から

今から10年近く前、ゲオルグ・ゲルスターという写真家が撮影した空撮写真集に出会った。「地球の顔」というこの写真集は、「眼下の塩田・生命・日本」という3つの章で構成されている。知っている町も、空から見てみると、未知なる美しさとドキッとする自然や都市の変化に気付かされ、また、俯瞰から見てはじめてわかる環境や社会問題も映し出されていた。彼のメッセージの中に「地上では、我々は現在あるものの在庫を数え上げて汲々としています。しかし、高見から見つめた航空写真は、あるかもしれないものを我々に示してくれます。我々の持っている未来へのチャンスの在庫調べのように」とある。ナショナルジオグラフィックにも寄稿しているという彼の視点は、世界や社会を俯瞰から見ることで、未来の危機や警告を察知して未来のチャンスに変えることの可能性があることをわたしに教えてくれたような気がした。

さて先日、当センターは5周年を迎えた。今回のフォーラムのテーマは、これからの日本におけるNPOのミッションについて考えてみることだった。でも、こういったある意味で非日常的なことを積極的に考えることは難しい。そこで今回のフォーラムに来てもらって、参加者の人たちにも一緒に日本の未来のことを考えてもらいたかったのである。

2日目は、近年のNPOの社会的変化について5人のパネリストそれぞれのプロフィールをからめてお話をいただいた。これはあまり聞くことが出来なかつた話が続出して、予想以上に面白い展開になつた。さらには、これからNPOが果たすべき

役割についても、重要でまた意外なキーワードが並び、興味深い話が山盛りだった。そのなかで、トヨタ財団の渡辺さんが「支援センターから俯瞰センターへ」というメッセージをくださった。その言葉を聞いて、ゲルスターの写真集のことを思い出し、俯瞰でものを見る大切さは、社会変革には欠かせない視点のひとつだと改めて思ったのである。

*この2日間のシンポジウム・ディスカッションの記録は来年、会員の皆さんに毎年恒例の大年賀状としてお送りする予定。請うご期待。

■ ドリカムノート



テレビで福岡の高校の「ドリカム」というプログラムを取り入れた進路指導を紹介していた。高校1年のときに、自分の将来の夢をノートに綴り(これをドリカムノートというのである!)、それを活かして夢を実現するための調査を1年間行ない、2年生になると夢の現場となる仕事場を訪れ、大人たちの話を聞きに行くという。このプロセスを通じて、夢をかなえるために学校での勉強を生かすというものだ。つまり、進路指導とは、大学へ進学し、いい会社へ就職するための指導ではなく、どのように生きていきたいか、どのように社会に責任を持ち関わりを持って自律・自立して生きていくか、生徒たちのキャリアデザインを応援するものに変わってきているという事例だった。

一昨年から取り組んでいる「市民起業家スクール」、今年から始まった「コミュニティビジネス開発講座」は、まさにこの「ドリカムノート」づくりだ。調査・行動・勉強というドリカムプラン。社会を変えるという夢の実現をめざすNPOにも、ドリカムノートは必要だと思った。

部会報告

■センダードサロン報告■

第68回「あなたにもできる政策提言」9/12

第69回「知りたい！病院ボランティアの仕事」10/2

第68回は、NPOに大切な「政策提言」について請願書や陳情書の違いや書き方のコツなどを学びました。提言書として法的に定義されているのは請願書のみで、議員の紹介を頂いて提出すると必ず議会の常任委員会で審議されること、請願書には提案をわかりやすい言葉で書くこと...などのお話を、議会事務局や議員の方から伺うことができました。ただ市民の思いをぶつけるだけではなく、市民と議会が粘り強く対話のプロセスを繰り返すことで、お互いの信頼関係を築き、政策を作っていくことができるというお話に、参加者も気付きがあったようです。

第69回は、病院ボランティアの活動内容やその役割について、いくつかの事例を元に情報交換を行いました。病棟や窓口への案内、入院患者の買い物・話し相手、図書サービス、雑草とり、車椅子押し...など、「無い仕事はない」と言うほど、活動は多岐に渡ります。また、病院とは、看護婦・医者・ボランティアが三位一体、一つのチームとなってサービスを行うことによって、患者が安心しながら治療できる環境となることが今回わかりました。ただし、ボランティアがいる病院も、ボランティア自体もまだ少ないとのこと。ぜひ挑戦してみませんか？（田中 聰子、中務 恵美）

●次回：12月15日「おいしい作業所味わい隊！」バスツアーで角田市の作業所を訪ねお話を聞きます。おいしいピザを提供している作業所です。

■PONPO-NET■

第16回 8/23

10月23日のPONPO-NETは、アイセック仙台委員会がコーディネートして来仙中のインターンシップ生による、富谷高校国際コース3年生を対象に行った授業の報告をしていただきました。

授業のテーマは“Dream Step Jump”。「夢に向かって何かアクションを起こしてほしい」というメッセージが込められたもの。「将来の夢」をテーマに研修生が英語でプレゼンをしたあと、「国際問題を身近なことで解決する」ことを考えるグループディスカッションを行ったそうです。途中アイスブレークを取り入れるなど、工夫いっぱいの内容。高校生からは「自分の夢に向かって行動を起こしたい」「世界の様々な問題を知った」などの感想が多く、今回の授業は高校生にとって、かなりのインパクトがあったようです。

1週間前に実施したばかり事業の評価を行い、当日の発表に望んだアイセック。見習いたい！との声もありました。普段は企業とNPOの連携をテーマに開催する当サロンですが、学校とNPOの連携事例も興味深いものでした。

（中津 涼子）

●次回：12月中旬

会場：東北NSソリューションズ（株）会議室

会議室提供：東北NSソリューションズ（株）

「安全な食べ物の提供とスローフード（仮）」をテーマに、関係するゲストをお招きして開催する予定です。

いもので。これまで各県に2~6つの支援組織があり連携を図っているものの、東北のネットワークはまだこれからという状況でした。

今は住友生命社会福祉事業団さんの資金提供（交通費・宿泊費）もあり、多くの関係者が集まることができました。これをきっかけにこのネットワークをNPOの基盤強化、課題解決のために、お互いに活用していくた

二つのテーマについて発表。各組織からミッショントークの経緯と現状をテーマに支援組織の誕生とこれまでの流れ、そして今後の可能性と課題について報告。続いて当センターの加藤代表理事が東北の現状について補足を行いました。

この後、出席者全員が、①わが組織の特徴・自慢②課題、という二つのテーマについて発表。各組織からミッショントークの経緯と現状をテーマに支援組織の誕生とこれまでの流れ、そして今後の可能性と課題について報告。続いて当センターの加藤代表理事が東北の現状について補足を行いました。

今回お呼びかけしたのは、約27団体。当日は複数で参加してくださいました。団体もあり約30人が会場に集まりました。

今回実施した「NPOパワー・ア

ップフォーラムin東北」では、設立が相次ぐNPOの支援組織の方々にお集まりいただき、交流と勉強会を実施しました。

東北のNPO支援センター大集合！ 「NPOパワーアップフォーラムin東北 報告②」

NGOのスタディツアーエクスペリエンス「in ネパール」

NPOの利用法～私の場合

ボランティアスタッフ 細野 泰志

私は今年の夏休みにNGOのスタディツアーワークに参加し、ネパールに行ってきました。今回のスタディツアーエクスペリエンスはせんだい・みやぎNPOセンターで得ることが出来ました。

私は普段、学業の傍ら同センターでボランティアスタッフとして活動しているのですが、夏休みを利用して以前から興味のあったNGOのスタディツアーワークに参加しようと適切なものを今年の6月頃に探していたところ、同センターの紅邑さんからその情報が載った冊子を紹介していただき、そのなかから行き先としてネパールを選びました。ボランティアスタッフは仕事に対しては報酬を一切いただかないわけですが、このような情報を得ることが出来るという点では、金銭以外の報酬を得ているとも言えます。

さて、ネパールでは時間の許す限り色々な場所を訪ねました。被差別階級の人々や女性、そして子供を対象とした様々なNGOやその施設を訪問して職員の方々

からお話を聞くことができただけでなく、ストリートチャリティの置かれている状況をフィールドワークをとおして自分の目で見たり、NGOの関係者宅に2度もホームステイをする機会にも恵まれました。通常のツアーですと、えてして観光地巡りに終始するわけですが、今回参加したスタディツアーエクスペリエンスでは観光地巡りは勿論ありましたが、それに加えて上記のような大変充実した時間を短期間ながら過ごすことが出来ました。

日本にいると発展途上国、とりわけネパールの情報を得る機会はなかなかありません。したがってネパールの人々がどのような市民活動をしているかということに関しては皆さんもおそらくご存知ないだろうと思います。しかし、私はネパールに行って、NGOの活動にかかる彼らの熱意には驚かされました。やはり国は違えど自分たちの社会は自分たちの手でより良いものとしたいという気持ちは共通なのでしょうね。私も彼らに負けないようにNPOでの仕事を頑張ってやろうと思います。

最初に本をひらいたとき、オヤつと思った。知性の人、といふ著者へのイメージがあつたから、硬い本を想像してしまっていたのである。（勝手に決めつけてしまふ）読み始めればすいすいと、早い人ならきっと2時間かからず読み終えることができるだろう。

語り口は堅やかでも、しつかりと残る読後感。「これを聞いてあなた自身の中で何が起つりましたか？」著者による問い合わせは、行をこえ、段落をこえて、本書全体を貫く声となり読むものの胸に降りてくる。とりわけ、借り物の言葉を使い、したり顔でコメントすることに慣れた二ブイ大人——になりつつあると、この本で強調されているのは、市民が自らの言葉を最大限自覺する読者の胸には。

この本で「NPOの可能性」と「NPOエクスペリエンス」について語る。本書へのこだわりが、本書の語りを決定づけた。講演でも人気の「加藤節」が聞ける（加藤陽子）

BOOK

市民の日本語

加藤哲夫著 ひつじ市民新書 720円（税込）

最初に本をひらいたとき、「くいかない」という現状認識や、参加型の議論こそが一人の「納得」を生み出し、社会変革の力を形成していくのだという、経験に基づいた信念がある。幅広い市民の力を取り出すために必要なスキルや、新しいコミュニケーションスタイルが提案されている。

たとえば、論理性や声の大きさで勝る者が議論を制する結果となる従来型の合議・決定過程への反省にたち、声の小さな人や、「効率的」でない話し方の人々も等しく参加する場の形成が必要である、との協働経験を通して得られた具体的知恵のあれこれが紹介されている。

対話への意志と「伝わる言葉」へのこだわりが、本書の語りを決定づけた。講演でも人気の「加藤節」が聞ける（加藤陽子）

■ 事務局活動報告（9/9～11/16）

活動
報告

■ 事務局/自主事業関連

- ・仙台市市民活動サポートセンター全体ミーティング（9/11・18・10/2・9・16・23・11/6・13）
- ・事業企画戦略会議（第6回：9/12 第7回：10/17 第8回：11/7）
- ・事業・運営会議（第46回：9/24 第47回：10/8 第48回：10/22 第49回：11/5）
- ・センター会議（9/25・10/30）
- ・第4回評議員会（10/10）
- ・理事会（第40回：10/17 第41回：11/15・16）
- ・事務局ミーティング（10/3・28・11/11）
- ・NPO向け広報講座・市民ライター&市民デザイナー養成講座・合同講座（9/9・18・30・10/7・18・21・11/6 加藤・紅邑・門間・須藤・葛西）
- ・NPOへの人財サポートシステムの開発 ワーキング（9/11・9/20・9/26・10/3・10/21 紅邑・遠藤・真壁）
- ・センダードサロン「あなたにもできる政策提言」「知りたい！病院ボランティアの仕事」「緊急集会！福祉の足を考える」（9/12・10/2・11/13 紅邑・遠藤・田中・中務・加藤・高田）
- ・宮城県議会議員との意見交換会（10/2 紅邑・高田）
- ・PONPO-NET（10/23 中津・松尾）
- ・サポート資源提供システム運営委員会（10/23）
- ・NPOパワーアップフォーラム in 東北／主催：（財）住友生命社会福祉事業団、日本NPOセンター、当センター（10/31・11/1）
- ・5周年記念フォーラム（11/1・2）

■ NPO/企業関連

- ・「ファシリテーター研修」／主催：日本財団（9/17・28・10/26 加藤）
- ・介護系NPO研究会／主催：（特）日本NPOセンター（9/18 加藤）
- ・第1回巡回＜石巻編＞／主催：みやぎ支援センターネットワーク（9/21・22 加藤・青木・工藤）
- ・（社）宮城県情報サービス産業協会／中古パソコンリユース支援事業連絡会（9/26・10/16 遠藤）
- ・第17回NPO支援センタースタッフ研修会／主催：（特）日本NPOセンター（9/27・28 青木・遠藤）
- ・「センターオペレーションに関する講義、ワークショップ」／主催：（特）NPOふくおか（9/27 松尾）
- ・コミュニティ・ビジネス開発講座／主催：仙台市中小企業支援センター（10/1・8・15・22 川村・針生・加藤・紅邑・遠藤）
- ・「全日本印刷文化典仙台大会」／主催：宮城県印刷工業組合（10/4 紅邑）
- ・全国ボランティアコーディネーター研究集会2003実行委員会（10/5 紅邑・青木）
- ・福岡市NPO・ボランティア交流センターオープン記念講演／主催：（特）NPOふくおか（10/6 加藤）
- ・第5回「NPOマネジメント」編集協力委員会合宿／主催：IIHOE（10/11・12・13 加藤・紅邑・青木・遠藤・松尾）
- ・地域カウンセラー養成講座（10/13・14 加藤・紅邑・青木・遠藤・工藤）
- ・「社会の中のNPO NPOを支える制度づくり」／主催：（財）北海道地域活動振興協会（10/13 黒澤）
- ・宮城県ボランティアコーディネーター養成研修／主催：（社福）宮城県社会福祉協議会みやぎボランティア総合センター（10/24 加藤）
- ・神奈川県内支援センタースタッフ研修／主催：かながわNPOマネジメ

ントカレッジ（10/27 加藤）

- ・多文化共生のための政策形成フォーラム in 関西／主催：日本財団（10/30 加藤）
- ・NPOパワーアップフォーラム in 広島／主催：（財）住友生命社会福祉事業団、日本NPOセンター（11/3・4 加藤）
- ・東北の自治体議員研修／主催：民主党（11/9 黒澤）
- ・多文化セミナリオ in あいち／主催：日本財団（11/9・10 加藤）
- ・山元町野外ぐるりん博物館／主催：土地改良事業団体連合会（11/13 加藤）
- ・「NPOとコミュニティビジネス」／主催：（協連）日専連東北地方連合会（11/14 加藤）

■ 自治体関連

- ・「住民協働ワークショップ」／（財）ふくしま自治研修センター（9/11・25・10/2・10/29・11/12 加藤）
- ・NPOマネジメント基礎集中講座／主催：（財）せんだい男女共同参画財団（9/13・14・15 加藤・青木・工藤）
- ・市民活動ステップアップ講座「NPO法人の作り方・NPO法人化講座」／主催：仙台市市民局地域振興課（10/19）
- ・情報化推進検討委員会学習会／主催：会津坂下町（9/24 青木）
- ・都心居住研究会／仙台都市総合研究所（9/25・10/23 紅邑）
- ・クリーン仙台推進員グループ研修／仙台市環境局（9/27・10/22 加藤）
- ・市民プロデューサー養成講座／主催：宮城県環境生活部青少年課（9/28・29 紅邑・田中）
- ・みやぎNPOプラザ運営協議会（10/3 加藤）
- ・市民活動起業講座「次世代パワーで社会を変える」「学生だって市民起業家」「多文化コミュニティの中で生きる・つながる」／主催：仙台市市民局地域振興課（10/9・16・24）
- ・「東北六県行政課題研修」／主催：（財）東北自治研修センター（10/15・16 加藤）
- ・市民活動入門講座「思いのカタチは市民活動」／主催：仙台市市民局地域振興課（10/19）
- ・中堅職員研修会「効果的な組織運営を図る」／主催：（社福）宮城県社会福祉協議会（11/9 青木）
- ・気仙沼NPOフォーラム／主催：宮城県・気仙沼市（11/9 紅邑）
- ・アレマ合同会議／主催：仙台市廃棄物管理課（11/11 紅邑・加藤）
- ・現代講座「NPOとは？」／主催：仙台市落合市民センター（11/13 青木）
- ・「若者と社会をつなぐ、地域資源開発と機会提供者の役割」／主催：福島県商工労働部（11/14 紅邑）
- ・市民活動見本市／主催：仙台市（11/15 高田・真壁）
- ・「ボランティアと市民センター」／主催：（財）仙台ひと・まち交流財団（11/15 工藤）

■ 相談、ヒアリング関連

- ・経営相談（9/10・10/28・11/14 加藤・青木）
- ・ヒアリング：花巻地方地域づくりデザイン会議（9/20）
- ・ヒアリング：（株）計画技術研究所（9/27）
- ・ヒアリング：仙台市太白区社会福祉協議会（10/2）
- ・ヒアリング：（株）三菱総合研究所（11/8）
- ・相談：1件（11/14）

サポート・ご協力 ありがとうございます (敬称略)

■平成14年度

●新会員 (16件)

松井優子、地域経済生活活性化協会、(特) 生活リハビリクラブきらら、(特) みやぎセキュリティNPO、ヤマネくらぶ、(特) ケア・サポートぬくもり、千川原公彦、稻垣美麻、岡本章子、千葉久美、尾掉千賀子、高橋和恵、山本美加、いわてNPO-NETサポート、渡辺礼子、高橋順子

●正会員 (13件)

でんでん宮城いきいきネットワーク、(社) 長寿社会文化協会東北ネットワークセンター、ふくしまップ宮城 伊藤清市、高清水ソフトウェアカンパニー、平嶋教義、岡田真秀、木村孝、北尚登、横須賀和江、大泉浩一、日向則子、木村正樹、谷川俊太郎

●準会員 (13件)

葛西淳子、鈴木素雄、平嶋靖子、おおさきNPO情報センター、鈴木道子、木村美保子、熊谷龍一、渡辺雅昭、高島紗綾、齋藤巖、枝松芳枝、(財) 社会開発研究センター (2口)、石田春子 (2口)

■ボランティアスタッフ (五十音順、敬称略)

葛西淳子、須藤達也、細野泰志、本郷正武

■企業・団体協力 (五十音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて)、東北NSソリューションズ(PONPO-NETの会議室提供)、富士ゼロックス(カラーコピー機を社会貢献価格にて)、ベネッセコーポレーション東北支社 (会議室提供)

■5周年記念フォーラムの際、NPO支援のためのチャリティに本やCD、DVDをいただきました (合計37点) special thanks !!

谷川俊太郎、生島ヒロシ、川北秀人、針生英一、加藤哲夫 (到着順) 総額67,300円

■寄付御礼 カンパしていただいた21,390円全額を「シーズ=市民活動を支える制度をつくる会」へ寄付いたしました。

催事・イベント

●サポート資源提供システム

オフィス什器・備品提供 内覧会開催

日時：11月26日 (火) 受付13:00~14:00

会場・提供：日本たばこ産業 (株) 東北コーポレイトセンター (事前申込みが必要です)

●企業人を活かすボランティアマネジメント講座

日時：11月30日 (土) 13:30~16:30

会場：ハーネル仙台

講師：ヴィ マネジメント 松本修一氏

ゲスト：NPO・ボランティア活動に関心をお持ちの企業の方々

●NPO経営相談

日時：12月5日 (木) 13:00~17:00

1月9日 (木) 13:00~17:00

(お申し込みは1時間単位になります)

会場：せんだい・みやぎNPOセンター

アドバイザー：加藤哲夫

相談料：会員2000円、非会員2500円 (1時間)

5周年記念誌 好評発売中!! 1000円 (税込)

せんだい・みやぎNPOセンターの仕事

NPOサポート・SENDAIモデル

■岡元ビル4F 仙台駅から徒歩15~20分



みんみん編集後記

■ 5周年の交流会の準備中、オープニングにギター演奏をしていただく「ミューズ」の吉田修さんがリハーサルを始めた。走り回っていたスタッフが思わず足を止めて聞き入った。生のアコースティックギターの音色に、気ぜわしいなかでひとときの豊かな時間をプレゼントされたような感動を覚えた。(紅邑) ■ みなさまのおかげをもって、せんだい・みやぎNPOセンターは無事設立5周年。で、私は来仙3周年。うへん私も身の回りでいろいろありましたねえ…。(←すごく遠い目) 果たして私の5周年はいかに?? (工藤) ■ 理事合宿で泊まった温泉宿にあつたリフレッシュ宿泊パック。とっても惹かれてます。1泊2食マッサージ付き1万円ですよ。NPOにも癒しの循環を広めましょう。最後になりましたが、パワーアップフォーラムで東北中から来て下さった方に御礼!! (遠藤) ●10/31~11/2の3日間、ご協力や励ましをいただきありがとうございました。